

令和5年度 第2回 気仙沼地区教科用図書採択協議会 議事録

○日 時 令和5年7月25日（火）
午後1時～午後6時（午後3時25分から午後3時30分まで休憩）

○場 所 気仙沼市役所魚市場前庁舎 第1会議室

○出席委員 委員（会長） 小山 淳 気仙沼市教育委員会教育長
委員（副会長） 齊藤 明 南三陸町教育委員会教育長
委員（監事） 芳賀 洋子 南三陸町教育委員会事務局長
委員 佐々木 伸 気仙沼市教育委員会学校教育課長
欠席委員無し

○説明員（代表専門委員）

白倉 彩枝子 九条小学校 校長
小松 祐治 志津川小学校 校長
熊谷 享 面瀬小学校 主幹教諭
石田 隆幸 入谷小学校 校長
佐藤 祐美子 面瀬小学校 校長
大和 美香 大島小学校 教諭
小野寺 夏江 名足小学校 校長
宮崎 弘子 大谷小学校 教諭
小野寺 裕史 鹿折小学校 校長
小野寺 貴子 気仙沼小学校 校長
佐々木 裕作 松岩小学校 校長
村上 敬子 大谷中学校 校長

○出席職員（事務局）

事務局員 清原 規史 気仙沼市教育委員会学校教育課主幹兼学事係長
事務局員 三浦 玲子 気仙沼市教育委員会学校教育課主幹

1 開 会（午後1時）（進行：清原）

2 挨 捶（小山会長）

本日、第2回の採択協議会に至るまでの間に、各教科の専門委員や各学校での資料作成のための教科書の閲覧等、それぞれの御協力に感謝を申し上げたい。各段階で必要な協議、確認を経ており、本日も慎重に審議を進めたいと考えている。忌憚のないご意見等をどうぞよろしくお願ひしたい。

3 会議録署名委員の指名

南三陸町教育委員会 齊藤委員にお願いする。

4 協 議 (議長：小山会長)

(1) 報告第1号 令和6年度使用教科用図書に係る選定審議会答申について (説明 清原)

- 答申書を読み上げて報告
- 質疑なし
- 承認

(2) 報告第2号 令和6年度使用教科用図書採択調査研究資料について (説明 佐々木)

- これは7月5日に本吉公民館において開催した専門委員会で作成した調査研究資料である。こちらについての詳細説明を各代表専門委員より説明をいただく。

(代表専門委員 入室)

- 文部科学省検定教科書の調査研究について報告
別紙調査研究資料のとおり説明。
- 質疑

【国語】

・A委員 3点確認いたします。1点目は、調査研究資料3ページの光村図書の「1 内容に関すること」の○印3つ目、「児童の心身の発達を考慮した各領域の単元数、教材数の配分・配列になっており。…」の記載部分で、光村では国語の教科書で単元数について触れられているが、単元数が他社よりも多いということか。それとも少ないということか。そのことにより、少ないのであれば、学びが少ない、多ければ学びが多い、というふうに捉えられるが。

2つ目は、4ページの書写だが、単元のことで、「2 組織と配列に関するこ」との○印の4つ目、「学年の配当時数に合わせた適切な単元数…」とあるが、これは他社に比べて多いのか、少ないのであれば、適切であるのかを確認させてほしい。

3つ目は、同じく4ページの「4 表現と体裁等に関するこ」との○印4つ目、「…背景が色別で示されている…」と記載があるが、カラーユニバーサルデザイン的に問題がない色別になっているのかということか。以上、お願いしたい。

・F代表専門委員 光村図書では特に単元数のことを触れたが、3社とも単元数に大きな違いは感じられず、それぞれに適切であり、書写も同様である。最後にカラーユニットに関しては、特に東書が意識して行っていると感じられたが、他社も刺激の少ないもの、集中しやすい、落ち着きやすい色を使用している。

・B委員 書写の4ページの東書と6ページの光村だが、「課題解決型の学習過程…」について、「3 学習と指導に関するこ」に示されているが、書写ではどのような課題に関してどのように取り組んでいくことなのか。イメージが難しかった。

・F代表専門委員 光村図書だけが行っているわけではないが、こういうところに気をつけて書こう、こういうところで発表する字を書こう、例えば電話帳やお礼の手紙など、その課題

に対してどのような文字、どのような表現で書けばよいのかというところを、子どもたちに意識させて取り組んでいるものが多いと感じた。これは1社だけではない。

- ・B 委員 東書も「課題解決型の学習過程が設定されており、…」とありますが、同じような意味か。書写でいう「課題解決…」も。
- ・F 代表専門委員 はい。
- ・B 委員 3社共通でお聞きしたいが、国語の「3 学習と指導に関するこころ」で児童が自己の学びを調整しながら学習できるよう配慮されているかという部分については、具体的な表現があまり読み取れなかつたが、主体的、対話的であるとか、基礎から応用、探究等については触れられているが、3社の中で自分なりに学びを調整しながら進めるという意味で、特筆に値する教科書があつたか。
- ・F 代表専門委員 東書は探究的というか、主体的、対話的に学ぶ方向性が鮮明に出ていると思われる。「3 学習と指導に関するこころ」でも触れたが、「見通す」「取り組む」「振り返る」の課題解決的な3ステップを前面に出しており、取り組んだ中で終わって振り返る時にさらに活かそうとか、事前に思い出そうとか、その学びの流れを意識させたり、そこで何を学ぶのか、何を追求していくのかというところが明確に分かるような学習指導となっている。
特に東書がその形をとっている。
- ・B 委員 個人として学んでいく上でも調整しながら学びやすくなっているという意味合いかと思う。
- ・C 委員 国語の3社ともにQRコードや教科書連動コンテンツが設けられていると思うが、その活用について、教師側と子どもたちの活用の仕方で2つの視点でいかがか。
- ・F 代表専門委員 3社ともQRコードを付しているが特に東書では600以上と多く、教師というよりは、子どもたちが学ぶためにもっとこれを知りたい、あるいは発展的な学習に使いたいという意味でのQRコンテンツが多いと感じた。

【社会】

- ・A 委員 7ページ東書の「1 内容に関するこころ」○印2つ目、「県の方針を踏まえ、…」とあるが、県の方針を踏まえて教科書が作成されているということはどういう点か。
- ・G 代表専門委員 表記として不十分だったかと思う。県の「令和5年度 学校教育の方針と重点」の中でも明確に社会のところでは、社会的事象の見方や考え方を働かせながら、学習を進めることができる、と明記されていたことから、国の指示を受けて県もその方針を盛り込んでいるため、その方向性に沿って教科書の編成がされている印象を記載していたところである。
- ・A 委員 7ページの「2 組織と配列に関するこころ」の○印5つ目だが、「…宮城県を広く取り上げ…」とあるが、専門委員の調査の段階では取り上げ方として突出しているということか、他の教科書会社でも取り上げていて同じくらいという意味なのか。
- ・G 代表専門委員 東書の教科書では私たちの県の例として、宮城県を単体で取り上げ、他の教科書は他県となっていた。伝統工芸を取り上げている単元では宮城県のこけしを取り上げており、宮城県を広く深く知る機会になるかと思う。
- ・A 委員 8ページ「1 内容に関するこころ」の○印2つ目の「…気仙沼地域に住む児童が地域

の実態や興味に応じて学習に取り組めるとともに…」とあるが、ここで気仙沼地域に住む…との記載は何か特徴的なことがあるのか。

- ・G 代表専門委員 特別に特徴的なことを取り上げていくということではなく、各学年に内容を選択できる単元がどの教科書にもあるが、特に教育出版では自分の興味のある内容を選択できるという捉えである。
- ・A 委員 10 ページの地図だが、「1 内容に関すること」の 1 つ目の○印、「…日本の国土地理的環境や…」の部分で、文章からすると「国土」と「地理的」の間に「の」が欠落していると思われる。確認願いたい。また、地図帳のため、表現や体裁がとても大事だが、地図に白い縁がされているということは、非常に見やすいイメージを持つと思うが、全体的に工程の違いによって色があるかと思うが、色具合もしっかりカラーユニバーサルデザインとして配慮されている色合い、色彩と判断できたかどうか。
- ・G 代表専門委員 黒い色のものは埋没してしまう可能性もあるが、縁を取ることで輪郭が逆にはっきり見えるなど確認できるのでその基本でもって研究をしたものである。
- ・B 委員 社会であるが、3 社の比較をお聞きしたい。いずれも問題解決型の学習に取り組める内容が示してあるが、3 社の中で児童が自己の学びを調整しながら学習できるように、その問題解決型の学習を自ら進められるという点で特筆に値する教科書があれば教えてほしい。
- ・G 代表専門委員 いずれの教科書も配慮されている。東書では、「使う」「調べる」「まとめる」「活かす」という文言が教科書のページの目立つ場所にフォーカスとして認識されている。他の教科書も時間の表示、次のシナリオ、そのキーワードが設けられているが、特に東書の教科書が一番見やすく、段階もしっかりと踏んでいるため、次の段階でも学習していることが分かりやすいと感じた。また、「ひろげる」についてもどの教科書においても、東書では「ひろげる教室」でも SDGs とつなぐようにという項目があるが、東書のページがさらに広がる学習につながるのではないかとの認識を持った。
- ・B 委員 次は地図についてお聞きする。11 ページは、作業活動についての内容、自己の学び、自分なりに調整しながら主体的にやっていくという意味では、特徴を明確に示してあるよう感じたが、まずはその作業活動がどうなのか、また、「3 学習の指導に関すること」で比較した時に、1 つ目の○印に東書は、「主体的な学習を促している」、11 ページの帝国の方は「多様なテーマに沿った地図が掲載されており、…深い思考を促すことができる」この違いが気になった。その 2 点を比較して教えてほしい。
- ・G 代表専門委員 帝国ではページ毎に具体的に自分で調べるきっかけや地図をより良く知ることができると考えている。同様に東書でも今回の地図には「ホップ・ステップ・マップでジャンプ」のようなコンテンツがたくさん入っており、地図以外に地区に関する事をさらに特徴やクイズ形式、別な資料につながる工夫がされていると感じた。帝国では様々なテーマの地図が掲載されていることでそれらを比較できるような配置になっていたと記憶しているため、それらを比較することでその違いについて思考を促す仕掛けがあったと感じる。東書は冒頭に地図の決まりで最初の 3 年生に提示する大きな考え方を示している。冒頭の地図の決まりでそれらのことを丁寧に説明することで基礎的な知識を十分に身に付けた上で、それらをもとに主体的に自分から積極的に取り組めるような仕掛けの可能性というような部分があると感じた。

- ・B 委員 それに特徴はあるが、甲乙つけがたいような説明だったと思うがそれで間違いないか。
- ・G 代表専門委員 甲乙つけがたいというのは委員の間でも意見があった。

【算数】

- ・A 委員 発行者ごとに各 4 項目の説明と簡潔に総評もあって一つ一つの教科書会社の特徴がよくわかった。そこで全体的なことですが特徴的なこととして算数は多くの会社が発行しており、さらに学年によっては 1 冊あるいは 2 冊に上下で分かれていることで、学びやすさ、学びにくさというのではないだろうか。それらの特徴がある中で、さらに特徴的だと思うのが、学校図書の「算数 6 年 中学校への架け橋」だが、これは 6 年生で学ぶ内容を「算数 6 年」で学んだあと、「架け橋」では補充や発展的な問題が多いというような内容になっているものか。それぞれの分冊の関係はどうだったのか確認したい。
- ・H 代表専門委員 中 1 ギャップ対策もあるのかと。それは確かに親切なことで、この教科書で 6 年間の総まとめをしてさらに中学校への橋渡しの意味で学校図書では設けられているのかと思う。個人的には分冊はどうかと思うが、こういうやり方もあるのかと思う。
- ・B 委員 全ての発行者の研究を通して、算数は教えやすさも大切だと思うが、子どもたちが自ら自分の学びを調整しながら勉強できるという視点も非常に重要だと思っている。その中で、全ての教科書に特筆に値するものがあったか。
- ・H 代表専門委員 そこはどの発行者も触れていると思い、説明から省略した部分であった。例えば、タブレットや QR コードも全て配置されている。その面では個別最適にアクセスして学べるということは全て対応していて、僅差を感じている。タブレットと教科書と教師の関わりを考えたときに、専門委員の中でも現段階では東京書籍と最終的に感じていた。
- ・B 委員 QR コードだけではなく、自分なりに勉強を進めるという点では紙上と同じか。
- ・H 代表専門委員 教科書を開いてめあてから入り、課題をつかみ、展開に入っていくという内容にどの発行者もなっているが、見開きから 1 ページの中で初めから単元の最後までトータルで整えられているのは東書であると感じている。もう一つ挙げるとすれば、専門委員で相談していたのは、1 年生用が B5 版を使用している日文も今回は頑張っている印象を受けた。

【理科】

- ・A 委員 説明が分かりやすく感じた。特徴的だと感じたのは、学習内容よりもゆとりを持った教科書、信州教育出版は観察実験の内容を精選してゆとりを大切にしているということを感じた。そのゆとりというのは、他は肃々と授業が進んでいく教科書のイメージだったか。
- ・I 代表専門委員 それに特徴的なところで、ゆとりの部分の内容の充実等というところで話をすると、信州教育出版の特徴的なところは身近な人物・現象の資料を多く掲載する点が非常に多く、その分観察実験の部分を減らすという特徴がある。ただ、その身近な自然の扱いがどうしても信州地方に偏っているところがある。一方で情報が多いという点において、啓林館は非常に発展的な内容が多いという印象がある。活用する力を身に付けさせたいとい

うことになるがその分、情報が多くなってしまう点はある。学校図書が同様に情報が多くなる原因として、全国の教科書に対応するために観察や実験の部分を複数掲載し、結果を書き込めるところを増やすなどが考えられるかと思う。教育出版では、いろいろなコーナーがあり、特に「思い出そう」「資料」「科学のまど」では非常に内容が充実しており、そこが他教科との関連や学習内容が相互に関連しているところをつかめるように発展的な学習であったり、教科横断的な学びの部分を推奨しているが、その分情報量が多い。その傾向はどの発行者にもみられる中で、東京書籍は本地区において、重要な学習ではないかと思われる自然災害や防災、減災教育に関する内容では、最新の技術やデータに基づいた多様な図版が採用されている点が素晴らしい感じている。栽培についても、全国で採用するためには複数の事例を紹介すべきところと思うが、東書ではその部分を精選し、飼育や栽培を行う動物の掲載について地域の実態に合っているかと思う。その分、指導する側も指導しやすいのではないかと思う。

- ・B 委員 理科という教科は自ら勉強することが大切な教科だと特に感じており、その中で特に自分で勉強しやすいのはどれか。
- ・I 代表専門委員 東書は主体的に探究的な学習ができる「学び方を学ぶ」コーナーが設定されており、非常に役立つ資料になるかと思った。
- ・B 委員 逆に言うと、学び方を学ぶという視点を他の教科書はあまり強調していないということか。
- ・I 代表専門委員 他の教科書についてもやはり個別最適な学び、協働的な学びの部分をどの教科書も意識しているのかと思う。また一人で学ぶために、タブレット等の二次元コンテンツをどの教科書も扱っている中、情報は多くなるため、何をみたら良いか、どれを使うかということを、学習者、指導者、大人たちが迷うかというところを正直感じている。
- ・B 委員 学び方を学ぶという視点でいうと他ではそのようなコーナーが無いということか。
- ・I 代表専門委員 全ての教科書にそのよう部分があるかと思う。今回の調査研究では触れていないこともあるかもしれない。
- ・B 委員 写真の掲載は重要と思うが、その差はどの程度か。
- ・I 代表専門委員 特に単元の導入では大きな写真を使用していることが特徴的だと思う。限られた視点ということもあり、器具の使い方、観察の仕方等について、どこまで紹介しているかということもあるため、大きな差は感じられない。

【保健】

- ・A 委員 2点確認させていただく。1点目は1単位時間のページ数について。今の説明の中で、1単位時間4ページで構成しているのは東書と学研だと思うが、他は1単位見開きでとしていることから、普通に考えると東書と学研の方がページ数が多く、他者は少ないというイメージがあるが、ページのバランスについてどうか。2点目は40ページの文教社の「2組織と配列に関するこ」の○印5つ目に、「…児童や地域の実態に応じて柔軟に対応できるようになっている…」の表現があるが、他の教科書も家庭や地域との連携や関係を重視している流れになっていると思う。その中で文教社のみ、「柔軟に…」との記載があり、特徴的な使い方だと思うが、文教社に特徴的なことがあるのか確認したい。

- ・J 代表専門委員 まず 2 ページ、4 ページのページ数との関係だが、2 ページで構成されているものが総ページで何ページだったかはわからないが、枚数的には資料や動きの絵が付いているため、半分くらい薄くなるのではと感じていた。私としては、1 ページで見やすいというのがあるが、その分内容が少し薄いという考えもあったため、どちらが良いのかは使用する側によって変わるのでと思う。また、「柔軟に…」という言葉を用いていることについては、文教社は地域の実態に合わせて使用しやすいように感じたため、そのように表現したものである。
- ・B 委員 全ての発行者を通してであるが、学習の流れが 4 つのステップ、3 つのステップ、またミッションを達成するためにステージとしてなど、学習活動の経験を示しながら編成されていることがわかったが、どれが一番、主体的な学びと捉えているか。
- ・J 代表専門委員 今回の教科書の中では、東京書籍にあった「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる」の 4 つのステップが一番、探究的な学習に合うのではないかと感じた。
- ・B 委員 結構、違うか。
- ・J 代表専門委員 課題解決型の流れを組むというのは、どの教科書も行っているが、その前段階で「気づく」から「課題解決」というのがあるが、「気づく・見つける」をまとめにしていくことによって、より課題を意識しやすくなっていたのが東書の教科書であった。

【英語】

- ・A 委員 2 点、質問させていただきたい。1 点目は教科書が 2 冊あって、「Picture Dictionary」や「Word Book」のような形はどちらも書き込みを中心とするものなのか、あるいはその形が別冊としてない発行者は「書く」ことについてどのような配慮をしているのか。2 点目は「CAN-DO」について、説明資料の中で「CAN-DO」に触れているのは 2 冊かと思うが、他の発行者は明確にあるのか、特に示していないのか、教えていただきたい。
- ・K 代表専門委員 基本的には教科書の中に書き込めるように配慮されているのがほとんどだと思う。単語から文を書くことへの配慮がどの教科書にもされており、別冊の中に書き込むこともあるが、主に書く指導については教科書の中で段階的に行っていくのが英語の教科書の特徴かと感じている。2 点目の「CAN-DO」については最初に説明した東書の中でも「CAN-DO」について「Picture Dictionary」の中にも設けられており、他の発行者の中にも「CAN-DO」について触れられている。ただ、調査研究資料の中には全て盛り込んでないというところもある。そのような説明で良いか。
- ・B 委員 44 ページの開隆堂の「2 組織と配列に関すること」の○印 2 つ目、「…バックワードデザインで単元が構成されている。…」という意味がわからない。どういうことか。
- ・K 代表専門委員 その表現だが、最初のゴールを設定してその活動のゴールをみんなで確認し、そこから自分の見通しをもって活動していく意味を、ここでは「バックワードデザイン」という表現にしたもの。英語の教科書の中では、東書でもそうだが、最初にきちんと活動の目標を示して、そこに向かって自分でどんな取り組みをしていくのか、どんなことが出来るようになるのかということを見通しを持ってやれるようにというものである。
- ・B 委員 それを「バックワードデザイン」と呼ぶということか。今まで聞いたことがなかつ

た。英語ではそのような表現なのか。

・K 代表専門委員 英語ではなく、他のいろいろな活動で最初に目標を設定して、その目標に向かってどのような取り組みをしていくか、計画を立てるということがあったと認識していた。

・B 委員 はい。その教科書の中で英語が楽しいという気持ちを高めていけるようにというのが、小学校の英語では非常に重要で、中学校の学習に向けての耐性トレランス等も高めていくためにも必要と感じている。開隆堂だけに「英語が楽しいという気持ちを高められるよう…」の記載があるが、おそらくそこは共通に意識していると思う。楽しくさせる教科書を特筆すべきは1種類である必要はないが、子どもたちが自分で勉強しながら楽しさを感じていける教科書は何種類があるか。

・K 代表専門委員 開隆堂については記載のとおりだが、東書も当てはまると思っている。東書の良かったところは4技能5領域のステップの中に、発表とやり取りがあるが、その部分は難しく、発表は用意されたものを話していくのが良いが、やりとりになると、聞かれたことに対し、即座に自分の考えを答えていくこともあるが、この点が東書はこれまでスモールトークで設けられているため、学習した単語を使って次の時間に聞かれたことに対し、自分の考えを入れて子どもたちが発表しながら話すことができる、達成感と同時に楽しい、聞かれてわかった、という構成になっているというところが引き継がれている。また、テーマについても自分から地域・日本・それから世界の国々と世界の中の日本、そして中南米へと、きちんと示されていることでコミュニケーションの能力を高めながら進めないと感じた。

・B 委員 はい。また、46ページの教出の「2 組織と配列に関するここと」の○印1つ目、「… 単元が進むにつれて少しづつ「読むこと」「書くこと」の英文の数が増えるように配慮されている。」とあるが、「書くこと」へのシフトというのはおそらく最重要といつてもいい内容だと思うが、ストレートに記載があるのはこの教出だけかと。他にも間接的な表現があったかと思うが、これは共通のことだと思う。何か差があるものか。

・K 代表専門委員 「読むこと」「書くこと」についてはどの教科書も共通して、最初は学校活動から英語になって「話す」「聞く」の活動を重視というところから単語を書いていく、読んでいくという流れ。そして書くことに関しては、小学校英語ではかなり課題になる、アルファベットをうまく書けない子どもたちがいる中で、英語として書いていくことは難しいことであり、その点を各発行者が丁寧にスモールステップの形で高められるように関わっていると感じている。

・B 委員 そういう意味ではあまり差はないということか。

・K 代表専門委員 最初の東書も「サウンド・ザ・クレター」というところで、音を聞いて書いてみるとそこにシフトするような活動も入っているので、面白いと感じていた。タブレットとQRコード、デジタル教科書の見本もあり、そこも今回調査したが、工夫されているという感想を持った。

【生活】

- ・A 委員 説明の最後には総括的な考え方を示していただいた。細かいところだが、27 ページの教出の「3 学習と指導に関すること」の○印 1 つ目の「…児童、教師、保護者がともに育成すべき…」のところでなぜここに保護者という言葉が出てくるのか。
- ・L 代表専門委員 生活科は家族というかみんなで育てるという意図もあるため、家族を含めて身近な人々との関わりも含めて育てていくということで、他の教科書もそうだが保護者の視点も入れながら作られていると感じた。教出に関しては、「保護者が」と明確に出ているような説明書きのものが見られたためである。
- ・A 委員 ということは、これは全ての教科書において行われている家庭や地域と共にという仕立てがある中で、教出は特にそうだったという捉えでいいのか。それとも具体的にこの教科書の中で大きく取り上げられているということか。
- ・L 代表専門委員 「3 学習と指導に関すること」○印 1 つ目、「学習のめあてが「サイコロ」で…」のところが、教出をみると児童、教師、保護者という明記がされてあったため、保護者にも伝えるためのものとして、特徴になっているのかと感じた。
- ・A 委員 はい。また、29 ページ 光村の「2 組織と配列に関するこ」の○印 1 つ目、「…別冊の資料編「ひろがるせいかつじてん」…」との部分で、別冊といっても教科書と一緒にになっているという意味でよいと思うが。他の教科書にはこのような仕立てはないか？
- ・L 代表専門委員 そこまで他の教科書を確認していないが、光村は素材も固く、持ち運べるようになっておりそこが特徴と感じている。
- ・B 委員 私からは、25 ページの大日本図書の「1 内容に関するこ」の○印 2 つ目、「…試行錯誤が生まれるような環境を設定したり…」の部分は非常に難しいことだと思うが、どういうことかを具体的に教えていただけるか。
- ・L 代表専門委員 「なぜ」というのが生まれるような場面を設定するという意味で記載した。
- ・B 委員 だとすると、「試行錯誤が生まれる環境」ではなく、「疑問を生み出しやすい」だとかの表現ではないか。
- ・L 代表専門委員 低学年が対象なので、そのとおりだと思う。修正させていただきたい。
- ・B 委員 生活科の特性として、遊びから座学へと単純化して言うと、その特性を実現していくための教科でもあると思うが、その観点で 7 社の中で共通して意識しているところだが、特に工夫がみられるという発行者があるか。
- ・L 代表専門委員 東書は良かったと思う。学習環境なども明確に提示されており、何に気をつけて書いたらいいのかという点も非常に今回の改訂に書かれてある。これまでではなかった部分だと思い、それは子どもたちにとって遊んでいたものが自分の力でステップアップできる手立てになるのではと感じた。その部分から東書が良いと感じた。

【道徳】

- ・A 委員 49 ページの東書の「1 内容に関するこ」○印 4 つ目、「…登場人物の心情説明の文言を削減し、教材文が学習効果を高めるよう工夫されている。」という表現がされているが、52 ページの日文の説明の中に「登場人物をリード文で取り上げているような表現があり、両者が特徴的なのかと感じた。

- ・M 代表専門委員 東書の方は、その登場人物が今、何を考えているのかという国語の文章のように細かく書くことになるべくやめて、ふんわりとした形にして、今、この子は何を考えているんだろうね、という発問がしやすいような教材文に修正を行っていた。一方、日文は教材文の脇にリード文があり、そこにあらすじではないが、何が問題なんだろうみたいなリード文があり、登場人物がその時に2人位載っているが、名前と写真がイラストで載っていて、いくらかでも教材の理解をしやすいようにという工夫だと思う。使いやすさや勉強のしやすさを東書のいろいろな心情、場面の分を削ったりと個人的には非常に良いと感じている。いろいろな意見を文章から考えるのではなく、場面想定から考えるような形になっている。発問などが良く練られていると思った。東書だけでなく、主旨発問は資料の中身に関することが多いが、今の自分はどうなんだろうと、道徳という流れに沿った発問構成を考えてるのだと強く感じた。
- ・A 委員 特別の教科 道徳になった一つの理由がいじめのことがあって、それを取り上げているところは必須的に挙がっていると思われ、情報モラルの方で取り上げることもあるかと思うが、特に今、ICT やタブレットを使用するなどますます小学生でも情報モラルについては大切だと思うが、特に特徴的に挙がっているところはあるか。
- ・M 代表専門委員 情報モラルについてはあまり意識してみていなかったが、どの教科書、どの学年にも入っているという捉えしかなかった。内容的にはあまり見ていなかったが、情報モラルを道徳で扱うかという難しさも自分では感じており、いじめについてもその問題を直接扱う教材もあれば、それを補完するような関連していじめにつながるような3つの教材で一つのいじめについて考えるようになる、また生命尊重もその形が多い。ただ、自分はそのつながりで指導したことがないので、そのユニットでやることがどう成果があるのか、やってみないとわからない、そういうことを意識した作りになっていると思う。
- ・B 委員 私は道徳の授業はあまりイメージできないが、教科化したことの批判として、やはり協働的に考えて正解のない答えに到達するという部分が弱まるという、要するに確立化されてしまって価値観、価値基準のための道徳になってしまうのではないかと正直感じている。今話した観点で一番正面に取り組んでいる教科書はどこか。
- ・M 代表専門委員 どの教科書もこの価値は正しいからみんなでやっていこうという作りではなく、この価値は正しいけれど、なぜできないんだろうねということをみんなで考えていこうという教科書の作りになっているので、内容項目の押し付けにならないような作りにはどの教科書もなっているかと思う。
- ・B 委員 今、話されたような、特にそのような部分を意識して作られた教科書を使うことによって、どの先生が扱ってもデメリット部分を減らせるという観点で、お聞きした。
- ・M 代表専門委員 これまで使って教科書を継続して使うということは、指導する方からするとそれまでの経験もあるため、同じ教科書であれば私も同じ教科書で指導してきたため、「これはこうした方がいいよ」「こうしたらこうなったよ」という助言や指導ができるが、教材がガラッと変わると教材研究ができるものの、自分の実践が無いため、多くを指導することができないことがある。継続して同じ教科書を使うことの良さは教材研究が毎年ブラッシュアップしていくため、メリットは大きいと思っている。

【図画工作】

- ・A 委員 34 ページの日文の「3 学習と指導に関するここと」の○印の 5 つ目ですが、「…体・心ほぐしの体操や活動の過程、用具の使い方等が動画で分かりやすく示されている。」の部分で、これは違うのでは。どういう意味か。
- ・N 代表専門委員 調査の際に動画を見たが、体操のような形で体と心を和ませて、取り組むところがたくさん工夫されているところとして挙げている。
- ・A 委員 そういう題材があるということか。
- ・N 代表専門委員 低学年の部分でそういう視点で見たもの。
- ・A 委員 他教科との関連みたいなイメージがあるのか。パッと見たときに体育の授業とコラボするようイメージで見たが。
- ・N 代表専門委員 今の子は造形活動があって、絵を描くとか立体を作る以外にグループでまとまって共同作品を作るとか、造形活動があるので、また、友達同士でのグループ活動の前の活動として捉えた。
- ・A 委員 グループの中で「マップ」のように気持ちを一緒にしましようみたいな、その部分が最初の導入の場面で QR コードで見るというそういうのが出てくるということか。これについては日文だけでなく、開隆堂の方には用具を操作するものは QR コードで出てくると思うが、体を動かしてグループの気持ちを高めるというのはなかったか。
- ・N 代表専門委員 日文の方は特に少し特徴的だったので挙げたが、開隆堂も作り方等の力を高められるような初めの動画が掲載されている。
- ・A 委員 合せて QR コード関係でどうしても図画工作の作品となると、QR コードを見て作品例みたいなものも多くなっているイメージを持ってしまうが実際はどうなのかと思うし、作品例があればそれに引っ張られることも出てくるのではないかという心配がある。画像の中にはやり方のアドバイスは出てくるけれども参考作品として、こんな例と提示があるとか。
- ・N 代表専門委員 最初の教科書は見開きで題材が配置されているため、そこに色々な作品例が載っているため、作品を作る見通しを持てる、QR コードは動物の扱いや鑑賞の作品例や地域の芸術につながるところもメインに参照できているように感じた。
- ・A 委員 結構くっきりと特徴を分けた表現になっていると思い、特に「2 組織と配列に関するここと」で開隆堂は「系統的」、幼児期から小学校への学びの連続性等を中心とした表現になっているが、34 ページの「2 組織と配列に関するここと」には「対話的な学びや協働的な学び」的なことが書いてあると思うが、当然、今の時代の教科書のため、この部分はどちらの教科書でも扱っていると思うが、その辺の差はあるか。
- ・N 代表専門委員 特に大きな差はない。やはりどちらも対話的・協働的な学びの部分は強調されており、個人で作品を作る題材と、グループをメインとした題材とあるため、開隆堂では記載しなかったが、こちらも対話的・協働的な題材もしっかり配慮されており、発達段階でわかりやすい接続のところがスムーズである部分で分かりやすいのが開隆堂と感じた。
- ・B 委員 そうするとどちらも同様の程度の扱いにはなっているが、開隆堂には系統的な配慮という特色がプラスされているという理解でよいか。
- ・N 代表専門委員 はい。

【家庭】

- ・A 委員 印象に残っているのは、デジタルコンテンツについて違いがあったことを聞いたが、ペーパーとしての教科書では特徴的なことはあるか。
- ・O 代表専門委員 大きいところでは、開隆堂の方が写真の見せ方等がわかりやすい部分が多いと感じた。デジタルコンテンツはこれからのICT活用と個別最適化のところで、基礎技能を習得のために動画を進んで見るという実態があり、個別最適化を考えてたり、教えやすさから考えると、そこが充実していることは特徴的という考え方を挙げた。
- ・A 委員 充実しているかどうかの説明の中で、開隆堂の場合は非常に細かく動画が分かれているが、細かく分かれていることを良しとするかというところだが、細か過ぎるため、できれば通した形の方が使いやすいのではないかというイメージを専門委員の中で持ったのではないかと思う。
- ・O 代表専門委員 開隆堂も通しの動画はあるが、コンテンツの羅列が多く、子どもたちが個別化していろいろなことを探したときに、ユニバーサルではないこともあるのかという意味でもある。
- ・B 委員 教科書本体について違いを明確にしていきたいという観点から質問する。東書の内容に関することは2社しかないため、1対1で聞くが、35ページの「1 内容に関すること」○印3つ目、「…自分なりの課題を持ち、学習に取り組めるよう配慮されている。」また、「…実践的体験的な活動を促せるよう…」等が特色と捉えている。一方で、開隆堂はやはり同じ項目の○印3つ目、4つ目の「細やかなステップを踏んで繰り返し学習できるよう配慮がなされている。」「内容が良く精選されている。…学習の発展を図る工夫がされている。」この辺りの押えになるかと思うが、どっちが優れているかどうかはいろいろな考えがあると思われる所以、「2 組織と配列に関すること」から東書で言うと、○印2つ目、「課題発見」「問題解決・実践」「評価・改善」の3ステップで振り返ろうというあたりが、強調されていたが、これはやはり活用の方法の問題である。36ページでは、「…実践を通して課題を解決していく流れ…」というところが、大きな特徴になっているかと思う。そのような捉えで良いか。
- ・O 代表専門委員 はい。
- ・B 委員 その次は「3 学習と指導に関すること」で、○印1つ目、2つ目の1年の充実ということ、「巻頭の「成長の記録」…」も重要と思われる。
- ・O 代表専門委員 家庭科は2年間を掛けた成長というのが重要視されている。これも特徴である。
- ・B 委員 習得した技能を活用するために実践的な活動を家庭などで行えるページを設けている。これが細分化され過ぎていることも関わってくるかもしれない。特徴の捉えとしては良いか。
- ・O 代表専門委員 はい。
- ・B 委員 東書は1つの実施を見開きで、開隆堂は題材を3ステップで構成、見開きで大きく横流れのデザインというところもある。
- ・O 代表専門委員 はい。
- ・B 委員 あとはこれをどのように評価するかということ。専門委員としては東書に偏った表現がずいぶん聞かれたと思うが、率直に聞くがそんなに差はあるか。

- ・O 代表専門委員 それほど大きく差があるということではない。
- ・B 委員 比べて差をしっかり示そうとすればということか。総合的に我々は判断しないといけないので、そういう意味では大きな差はない。学校の希望も含めて総合的に判断してよいという認識でいいか。
- ・O 代表専門委員 どちらもそれぞれ良い部分を持っており、際立っているところをアピールするということであれば、デジタルコンテンツは使いやすいというのが専門委員の中で話があるもの。
- ・B 委員 確認すべきところを確認させてもらった。

【音楽】

- ・B 委員 2 社しかないので質問により確認をさせていただきたい。この調査資料からまず、「1 内容に関すること」に関しては、教出の「音楽のもと」はワークシートとして使えるというまとめでいいのか。
- ・P 代表専門委員 こちらは「音楽のもと」としてまとめているところが私としては良いと感じている。
- ・B 委員 それに対して教芸の方は説明にもあったが、まとまりが分かりやすい協働的な学び方への工夫もあると示されている。そういうことでいいか。
- ・P 代表専門委員 こちらは題材としてのまとまりというのを意識していて、この題材ではカノンであれば、歌の曲やリコーダーの曲というふうにまとめている。そこもこれまでやってきたところもあるため、その題材としてのまとまりという意味でいいのかなというところがある。
- ・B 委員 「2 組織と配列に関するこ」では教出は「系統性」、○印1つ目と3つ目に2回触れられていることもあります、系統性に優れる。それに対して教芸は、系統性、発展性に触れているが、○印3つ目で「…基礎的な能力の定着及び伸長が確実に図れるように配慮…」とされており、ここは特徴だと思うが。
- ・P 代表専門委員 はい。
- ・B 委員 私はできるだけ客観的に見ようとしていて、紙からの情報では学習と指導に関するこの部分で、教出では「音楽のもと」「まなびなび」「ショートタイムラーニング」「まなびリンク」とたくさんの情報が示されている。ところが、教芸は振り返りのページが特に強調されている程度と私は読んだ。そんなに差や違いがあるのか率直な疑問である。客観的に採択していくためには本当にそんなに差があるのかどうしても気になるところである。どうか。
- ・P 代表専門委員 気にしてみたが、教出はこんなことをさせればもっといいんじゃないかな、というようなところがはっきりしていることが違うと感じていて、教芸が悪いということではなく、教芸は教科書を見た段階では子どもにとって楽譜があって指を使ってということはわかるが、子どもにとってあまり伝わらないのではないかと感じたため、今回は違いが出るよう書いたかもしれない。
- ・B 委員 それは当然そういうふうに考えていいと思うが、ただ一方では学校の希望を確認しており、総合的に考えないといけないため、今確認したいのは本当にここに書かれてある程かと。

- ・P 代表専門委員 前回も「音楽のもと」というのは、やっぱり意味がない感じではいたが、今回見たところではそこがはっきりと違っているんじゃないかと思うようになった。教芸も協働的な学びを意識して工夫してきていると感じた。また伝統工芸については教芸の方が多く取り上げているところがあって、教出はそこが弱いかと感じている。内容的な面での違いがある。
- ・B 委員 総合的に考える必要があるため、確認させてもらった。また、説明の中で、教師への負担は教芸の方が少しあったかもしれないと思ったが。
- ・P 代表専門委員 考え方次第と思うが、教芸にはこういうふうにやると書いてないので、逆に教師裁量でやっていいということ、やってもいいしやらなくてもいいという良さはあるかもしれない。教科書に書いてあるのでやらなければならなくなるかもしれない、そこは考え方だと思っている。
- ・B 委員 やっぱり難しいものである。確認すべきところは確認した。総合的に判断したい。

○ 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の調査研究について報告
別紙調査研究資料のとおり説明。

○ 質疑

- ・A 委員 5ページの「ドラえもんの理科おもしろ攻略」だが1994年が初版で51版となっているが、非常に長い間人気で読まれているものである。なぜ今頃なのか。それだけいいということか。
- ・Q 代表専門委員 「ドラエもんの攻略シリーズ」は4ページにも同じシリーズであるが、以前はどのような扱いかは分からぬが、今回調査した時に1994年が初版だと考えると、絵がずいぶん新しい、古くないと感じた。
- ・A 委員 ここで初版から変わっていないように見えた。改訂版を出したのではなく、全部そのまま増刷したのかと。4ページの話が出たが、これも漫画ではあるが、かなり難しい内容を感じた。
- ・Q 代表専門委員 くくりとしては、中学生用の9条本の中に入っている。また知的な障害のある子どもの9条本のため、扱える子どもはだいぶ能力が上の子どもと考えられる。
- ・A 委員 中学生用の本なのか。
- ・B 委員 ただあまり変わってない、題材は。普通の教科書と同じように実験観察もかなり入っている。かなりハイレベル。また、全体に関して文字がとても多いものがある。文字を読ませることを前提としているのか。どう使うのか。
- ・Q 代表専門委員 その子どもの障害の特性によると思う。同じ9条本を使用したとしても、扱い方は一部を使用する、全部を使用する、文章に着目させるなど子ども一人一人によって大きく変わるとと思う。
- ・B 委員 文字情報が多い。増えてきている気もする。それは先生の勉強のためにそれをかみ砕いて伝えていくとか、そういう使い方をするのかとも思う。図鑑も文字がいっぱいあっても写真などで使うことでイメージは出る。
- ・Q 代表専門委員 指導する教員にとっても指導の助けになるかと思う。

- ・B 委員 毎回この一般図書を楽しみにしているところもある。
- ・A 委員 学校では植物を育てるときに数種類しか育てないと思うが、この図書はこんなに種類が多い気もする。
- ・Q 代表専門委員 子どもがそれを見てこれを育ててみたいという選択もできるかと思うし、土の作り方やマルチの掛け方など、教員は分からぬが、地域の人に教えてもらうこともある。
- ・B 委員 一般図書は教材を基に1冊ずつ決めるのか。たくさん買ってこの本を使ってということではないのか。
- ・Q 代表専門委員 この子どもは今年は国語でこの図書を使う、算数はこの絵本を使うと決めしていくもの。支援学校の場合は、みんなでいろいろな本を見ることがあるかもしれないが、小学校では9条本、中学校では☆本や学年を下ろして通常の教科書を使用することになる。

○ 全ての教科について報告終了
(代表専門委員退室)

- ・小山議長 これより通常の協議会に戻りまして、各代表専門委員より説明をいただいたが、先ほどの質疑で尽きていているということでよろしいか。
また、調査研究資料の内容に関して採択を進めていくことでお認めいただけるか。

○ 承認

(3) 議案第1号 令和6年度使用教科用図書の採択について（説明 佐々木）

○ まずは、小学校用教科用図書について、採択をお願いする。

今年度は、小学校用の教科用図書の採択年度であることから、採択に当たっては、先ほどお認めいただいた、令和6年度使用教科用図書採択調査研究資料、各市町からの採択計画書、各学校の採択希望集計表、教科用図書の見本を参考にお願いする。

次に中学校用の教科用図書の採択となる。

中学校用の令和6年度の使用の教科用図書については、原則採択替えしないという基本があるためその方針を踏まえたうえで採択をお願いする。

資料としては、昨年度当協議会で採択しました教科用図書の一覧表を基に作成した（案）となる。

最後に、一般図書の採択である。

資料としては、先ほどお認めいただいた、令和6年度使用教科用図書採択調査研究資料、各市町からの採択計画書、各学校の採択希望集計表、一般図書の見本となっている。

なお、一般図書は、昨年度採択した教科用図書のうち、供給不能等の理由から除外された図書と新たに加わる図書という形になる。

また、一般図書については、それぞれの児童生徒に合った一般図書を担任の先生が選ぶという観点から市町からの採択計画書と各学校の採択希望集計表については、これまでの教科書を含めた中からの希望となっている。

説明は以上となる。よろしくお願ひしたい。

・小山議長 事務局から説明があったことについて、1点ずつお諮りする。

まずは小学校の教科書の採択から、先ほど説明があった資料に沿って1教科ずつお諮りするがそれでよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 それでは小学校国語から始めたい。市町の採択計画書、専門委員の説明を受け、東書が多く、意向を重視するということからすれば東京書籍を採用とすることによろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 東書とする。

次に書写であるが、詳細の説明は省略して進めるが、国語との関連性からも同様に東書としてよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 東書とする。

次に社会であるが、全ての学校が東書を希望として挙げており、東書としてよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 東書とする。

地図に関しては帝国書院の希望校もあるが、市町の採択計画書、東書の希望校数が多く、専門委員も東書との意見があることから、東書でよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 東書とする。

次に算数は、市町の計画書、東書を希望する校数も圧倒的に多く、専門委員の意見からも東書としてよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 東書とする。

理科についても同様の理由において東書としてよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 東書とする。

次の生活は希望校数が圧倒的に東書が多い。東書としてよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 東書とする。

次に音楽である。市町の採択計画書や希望校数ではかなりの差がみられる。代表専門委員は教出との説明もあるが、あまり差はない。

・齊藤委員 気仙沼市と共同で採択を行っているため、多くの学校の判断も考えていく必要がある。市町の総計を尊重すべきと考え、採択協議会としては教芸で採択されることが必要と感じている。

・小山議長 それではお諮りする。希望学校数を尊重して教芸としてよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 教芸とする。

次に図画工作であるが、市町の計画書、希望校数、専門委員の意見を踏まえ、開隆堂としてよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 開隆堂とする。

家庭であるが、希望としては校数は最も接近している。専門委員の聞き取りからもそれほど差はない、それぞれに良さがあることを確認した。どのようにしたらよいか。

・齊藤委員 どちらかに決めなければならない。となれば、先ほどの音楽と同様の考え方からすれば、気仙沼地区全体の校数 19 校のうち、多い方の教科書を採択すべきではないかと思う。専門員の説明の中でも本当に差があるのだろうかという印象をもった。どちらも検定を通った教科書であり問題があることもなく、現場の学校の先生方の希望を優先すべきではないかと。

・小山議長 肉薄はしていますが、開隆堂としてよろしいか、他の委員の皆さんはどうか。

・佐々木委員 よろしいと思う。

・芳賀委員 よろしいと思う。

・小山議長 では、改めて開隆堂としてよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 開隆堂とする。

次に保健だが、学校の希望として東書以外の 3 社挙がっているが、東書が圧倒的に多い。東書としてよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 東書とする。

次に英語も同様の理由で東書としてよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 東書とする。

最後は道徳だが、同様の理由で東書としてよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 東書とする。

以上を小学校の教科書として採択したいと思う。令和 5 年度使用の教科書と同じものである。確認をしていただきたい。

・小山議長 次に中学校の教科書の採択について、事務局より説明があったとおり、原則採択替えしないという基本のもと、特に問題ないと思われる所以、その方針に従い、今年度と同じ教科書の採択としてよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 次に一般図書だが、今回新たに追加で 12 冊の図書が追加されたが、これまで採択したものに加える形で採択するということによろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 以上で、小学校、中学校、一般図書の採択について終了とする。予定していた議案は以上ということになる。

5 その他（令和年6年度負担金について）（説明：清原）

○ 資料に沿って説明

- ・齊藤委員 来年度は中学校用教科用図書の採択年度となるが、積算の単価は十分か。足りなくなることはないか。
- ・事務局 前回の採択替えの積算を参考にし、市町の今年度からの増額幅のバランスを取った。予算が不足することは無いかと思う。
- ・芳賀委員 この学級数は現時点での見込みと思うが、今後変動があってもこの数字でいくといふことか。特別支援学級も含まれているのか？
- ・事務局 学級数の見込みは今後もこの数字で積算していく。特別支援学級も含まれる。
- ・小山議長 他に質問はよろしいか。よろしければ、事務局案をお認めいただけるか。

○ 承認

6 閉会挨拶（齊藤副会長）

本日、第2回の採択協議会が無事に終了した。小山教育長はじめ、事務局には多大なご苦労をお掛けした、感謝申し上げる。小学校の来年度の教科書の採択についてここまで成し遂げることができた。来年度から4年間にわたって子どもたちにとって最適な教科書が配付されることになり、本当に良かったと思い、また一般図書についても新しい教科書が増えたことにより、子どもの実態に応じて様々な選択の幅が広がることと思う。

来年度は中学校の採択替えとなり、またご苦労をお掛けすることとなるがよろしくお願いしたい。本日は大変御苦労様でした。

7 閉会（午後6時）

上記記録の正確なるを認め、ここに署名する。

令和 年 月 日

会議録署名委員